製品安全データシート

改訂日：2010年8月2日

1. 製品及び会社情報

製品名	コロジオン(5%)
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町２丁目３番１１号
担当部門	品質保証室
電話番号	(06)6393-4001
FAX番号	(06)6396-7714
緊急連絡先	米山薬品工業（株）三国工場
整理番号	02457

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体： 区分1
健康に対する有害性	急性毒性（経口）： 区分4
	皮膚腐食性・刺激性： 区分3
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性： 区分2A-2B
	生殖細胞変異原性：区分1B
	生殖毒性：区分1A
	特定標的臓器・全身毒性： 区分3（麻酔作用）
	（単回ばく露） 区分3（気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性： 区分1（肝臓）
	（反復ばく露） 区分2（神経）
	吸引性呼吸器有害性： 区分2

＊記載のないものは「分類対象外」,「分類できない」または「区分外」。

ラベル要素

注意喚起語	危険
危険有害性情報	極めて引火性の高い液体および蒸気 軽度の皮膚刺激 強い眼刺激 飲み込むと有害（経口） 遺伝性疾患のおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性) 眠気又はめまいのおそれ(麻酔性) 長期又は反復暴露による臓器の障害(肝臓) 長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(神経) 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ
注意書き	【安全対策】 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこ 使用前に取扱説明書を入手すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけ ること。-禁煙。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用するこ と。静電気放電や火花による引火を防止すること。 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けるこ 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 容器を密閉しておくこと。 【救急処置】 火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。 無理して吐かせないこと。 直ちに医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。医師の診断、手当てを受けること。
皮膚（又は毛髪）に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成､成分情報

単一製品･混合物の区別	混合物		
化学名	ピロキシリン	ジエチルエーテル	エタノール
別名	ニトロセルロース	エチルエーテル	エチルアルコール
含有量	5%	68%	27%
化学式又は構造式	――――	$C_2H_5OC_2H_5$	C_2H_5OH
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	(8)-176	(2)-361	(2)-202
CAS No.	9004-70-0	60-29-7	64-17-5
危険有害成分	ピロキシリン，ジエチルエーテル，エタノール		

4. 応急措置

眼に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 無理して吐かせないこと。 直ちに医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気
特有の消火方法	散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。
回収、中和	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	静電気放電に対する予防措置を講ずること。 作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 保護具を着用する。
局所排気･全体換気	防爆タイプの全体換気装置、局所排気装置で換気する。
注意事項	引火性がきわめて高い。爆発性過酸化物を生成することがある。飲み込むと有害である。曝露の繰返しにより、皮膚の乾燥あるいはひび割れを引き起こすことがある。 蒸気は眠気あるいは吐き気を催すことがある。 溶剤が蒸発すると爆発性のニトロセルロースが残る。
安全取扱い注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入又は飲み込んではならない。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	炎，火花，強酸化剤

保管

技術的対策	保管場所は耐火構造，使用する電気機器は防爆構造とし，機器類はすべて接地する。
適切な保管条件	容器は直射日光を避け，密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。 酸化剤から離して保管する。 施錠して貯蔵する。

混触危険物質	強酸化剤
容器包装材料	ガラス

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	400ppm（ジエチルエーテル）
許容濃度	
日本産業衛生学会	400ppm，1200mg/m^3（ジエチルエーテル）
ACGIH	TLV-TWA：400ppm（ジエチルエーテル） TLV-STEL：500ppm（ジエチルエーテル） TLV-TWA：1000ppm（エタノール）
設備対策	防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸容器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手の保護具	保護手袋
目の保護具	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	作業着、保護長靴
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	無色～微黄色の液体
臭い	エーテル臭
pH	該当情報なし
融点	-116℃
沸点、	34.5℃
引火点	-45℃
爆発限界	1.9～36%（空気中）
蒸気圧	58.6kPa(20℃)
蒸気密度(空気=1)	2.55
比重	0.77
溶解度	水に難溶
オクタノール／水分配係数	log Pow：0.89
自然発火温度	180℃
分解温度	該当情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱では安定。熱、光に不安定である。
危険有害反応可能性	光や空気の影響下で爆発性過酸化物を生成することがある。 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	高温、日光，火花、裸火
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素，二酸化炭素，青酸ガス，酸化窒素

11. 有害性情報

急性毒性	ニトロセルロース	経口－マウス　LD50： >5g/kg
		経口－ラット　LD50： >5g/kg
	ジエチルエーテル	経口－ラット　LD50： 1215mg/kg
		吸入－マウス　LC50： 31000ppm/30M
		吸入－ラット　LC50： 32000ppm/4H
		吸入－ヒト　LCL0： 200ppm
		経皮－ラビット　LD50： >20ml/kg
	エタノール	経口－マウス　LD50： 3450mg/kg
		経口－ラット　LD50： 7060mg/kg
		吸入－マウス　LC50： 39g/m3/4H
		吸入－ラット　LC50： 20000ppm/10H

	経皮－ラビット　LDL0： 20ｇ/kg
皮膚腐食性･刺激性	軽度の皮膚刺激がある（ジエチルエーテル）。
眼に対する重篤な損傷･刺激性	強い眼刺激がある（エタノール）。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。
生殖細胞変異原性	遺伝性疾患のおそれがある（エタノール）。
発がん性	ACGIH：A4(ヒト発がん性に分類できない物質）（エタノール）
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれがある（エタノール）。
特定標的臓器･全身毒性-単回暴露	ヒトで5000ppm （9.4mg/L）の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす（エタノール）。 眠気又はめまい，呼吸器への刺激のおそれがある（ジエチルエーテル）。
特定標的臓器･全身毒性-反復暴露	長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、肝臓に最も悪影響を与える（エタノール）。
吸引性呼吸器有害性	飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ（ジエチルエーテル）。

12. 環境影響情報

生態毒性	藻類（セレナストラム）：96時間EC50=579000μg/L（ニトロセルロース） 甲殻類（オオミジンコ）：48時間LC50=5463.9mg/L（ジエチルエーテル）
残留性･分解性	3%（by TOC），微生物等による分解性がないと判断された物質。（ジエチルエーテル） 89%（by BOD），微生物等による分解性が良好と判断される物質。（エタノール）
生態蓄積性	濃縮性（倍率）：コイ0.9～1.4倍（500μg/ｌ），コイ＜1.7～9.1倍（50μg/ｌ），魚介類の体内において、１．濃縮性又は蓄積性がない、あるいは低い、２．高濃縮性ではないと判断された物質。（ジエチルエーテル）
土壌中の移動性	該当情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。 焼却法：アフタバーナーおよびスクラバー付きのインシナレーター（灰化炉）の中で焼却。燃え易いので十分注意しながら点火すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国連番号	2059
品名(国連輸送名)	ニトロセルロース（液体）(（窒素量が12.6質量%以下でニトロセルロースの含有率が55質量%以下のものに限る。）
国連分類	クラス3（引火性液体）
容器等級	Ⅰ

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	危険物第４類特殊引火物
労働安全衛生法	施行令別表第１危険物（引火性の物） 施行令第１８条名称等を表示すべき有害物 施行令第１８条の２〔名称等を通知すべき有害物（ＭＳＤＳ対象物質）〕 施行令別表第６の２有機溶剤（第２種有機溶剤）
バーゼル法	第２条特定有害廃棄物等（0.1重量%を超えるもの）
外為法	輸出令別表第２の２１の３項（50%を超える混合物を含む）、 別表第２の３５の２項（0.1重量%を超える廃棄物）
船舶安全法	危規則第３条危険物等級３引火性液体類
航空法	施行規則第１９４条危険物引火性液体
港則法	施行規則第１２条危険物（引火性液体類）

16. その他の情報

引用文献	化学品安全管理データブック(化学工業日報社) 緊急時応急措置指針(日本規格協会) 製品評価技術基盤機構HP 安全衛生情報センターHP

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険･有害性の評価は、現時点で入手できる資料･情報　データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。